

# 目次

木島平村誌刊行を祝して

発刊のことば

序 説

例 言

木島平村誌刊行会長

湯本安正

文部大臣

田中龍夫

## 自然編

### 第一章 概説

第一節 広がり・形状・面積・適性地

第二節 位置

一 境位

二 交通上からみた位置

三 気候や生物からみた位置

第三節 地域の特質

一 塚群の美

### 第二章 地形

第一節 地形概説

一 地形的位置

二 地形区分

.....三

.....三

.....五

.....五

.....五

.....五

.....八

二 馬曲川・樽川の扇状地

三 高社山地域

四 カヤノ高原

五 西・北部平坦地域

.....四

.....四

.....四

.....四

第二節 区分概説……………二六

一 傾斜性氾濫原―扇状地

馬曲川扇状地 樽川扇状地 美事な塚群

二 山地

高標山―カヤノ平 高社山 池ノ平台地

虚空蔵山

三 平地

第三節 河川……………三三

樽川 馬曲川

第三章 地質……………二六

第一節 地質概説……………二六

一 日本列島が二つにちぎられた頃の北信地方

二 成長をつづけてきたわが郷土

第二節 木島平東部の山地……………二六

一 火山の土台をつくる岩石

玢岩 青みかげの石英閃緑岩 魚のうろ

この化石

二 眠りからさめた火山活動

三 新しい火山の誕生

城蔵山 竜王山 高標山 大次郎山

毛無山

第三節 高社火山群……………三三

一 地形・地質

虚空蔵山 澗の沢山 高社山 飯盛山

・三ツ子山 池ノ平台地

第四節 低地……………三三

一 扇状地

馬曲川扇状地 樽川扇状地

二 飯山盆地

飯山盆地の西縁 飯山盆地の東縁 飯山

盆地面

第四章 土壤……………三三

第一節 概説……………三三

一 土壤の生成

風化作用と土壤の生成作用 土壤の分化

二 土壤の構成

三 土壤の分類

四 木島平村にみられる土壤型

黒ボク土 多湿黒ボク土 褐色低地土

灰色低地土 グライ土

第二節 耕地土壤……………三三

一 黒ボク土

厚層多腐植質黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	二
ク土	淡色黒ボク土壌	
二 多湿黒ボク土壌	厚層腐植質多湿黒ボク土壌	表層腐植質多湿ボク土壌
三 褐色低地土	中粗粒褐色低地土壌	
四 灰色低地土	中粗粒灰色低地土壌	
五 グライ土	中粗粒グライ土壌	
第三節 地力保全および土壌管理……………	……………	三
一 土壌・群別 生産力維持培養に必要な管理方針	厚層多腐植質黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土
	ク土	淡色黒ボク土
	厚層腐植質多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土
	中粗粒グライ土	中粗粒褐色低地土
	中粗粒灰色低地土	中粗粒灰色低地土
	中粗粒グライ土	中粗粒グライ土
二 土壌管理の目標値	……………	……………
第五章 陸水……………	……………	……………
第一節 河川……………	……………	……………

一 河川の概況	……………	……………
二 烏川・大川水系	PH 塩化物イオン $Cl^-$	化学的酸素要求量 COD
	硫酸イオン $SO_4^{2-}$	……………
三 馬曲川水系	PH 塩化物イオン $Cl^-$	化学的酸素要求量 COD
	硫酸イオン $SO_4^{2-}$	……………
	CaCO <sub>3</sub> ・カルシウムイオン $Ca^{2+}$	マグネシウムイオン $Mg^{2+}$
四 樽川・大川水系	PH 塩化物イオン $Cl^-$	化学的酸素要求量 COD
	硫酸イオン $SO_4^{2-}$	……………
	CaCO <sub>3</sub> ・カルシウムイオン $Ca^{2+}$	マグネシウムイオン $Mg^{2+}$
五 河川の要約	……………	……………
烏川・大川水系	馬曲川水系	樽川・大川水系
第二節 扇状地における湧水……………	……………	……………
一 湧水の水質	水温 PH 塩化物イオン $Cl^-$	化学的酸素要求量 COD
	硫酸イオン $SO_4^{2-}$	……………
	全硬度 CaCO <sub>3</sub> ・カルシウムイオン $Ca^{2+}$	マグネシウムイオン $Mg^{2+}$
三 湧水の要約	……………	……………

第三節 池沼……………一〇三

一 北ドブ湿原概観

二 北ドブ湿原の水質

池沼の水質 北ドブ湿原の小河川の水質

第六章 気候……………一〇六

第一節 気候型とその特徴……………一〇六

降水からみた気候の裏日本型 気湿にみられる内陸性

第二節 気温……………一〇〇

第三節 降水量……………一〇四

第四節 雪……………一〇五

第五節 カヤノ平の気象……………一〇六

第六節 天気俚諺……………一〇九

第七章 植物……………一三三

第一節 蘇苔類……………一三三

一 はじめに

二 この地域のコケ類

カヤノ平のコケ類 高社山のコケ類 平

坦部のコケ類

三 コケ類の利用

培養土に利用されるミズゴケ類 盆景・鉢

植に利用されるコケ類 盆栽とコケ類

庭園材料としてのコケ類

第二節 キノコ……………一三九

一 はじめに

二 当地方の主な食菌

ナメコ ムキタケ ヒラタケ クリタケ

ナラタケ ウラベニホテイシメジ

三 当地方の主な毒菌

ツキヨタケ クサウラベニタケ ニガク

リタケ カキシメジ ドクアジログサタケ

ベニテングタケ シロタマゴテングタケ

四 木島平村付近の主要菌類目録

菌ジソ類(マツタケ目 ヒダナシタケ目)

腹菌類(スッポンタケ目 ホコリタケ目)

子ノウ菌類(チャワンタケ目 ビョウタケ目)

異担子菌亜綱(キクラゲ目 シロキクラゲ目)

第三節 カヤノ平の高等植物……………一三九

一 はじめに

二 分布

樽滝・糠塚・カヤノ平牧場 ドブ平・北ド

ノ湿原	北ドブ湿原	ドブ平〜清水小屋	
営林署小屋〜高標山	八剣山〜赤ダレ谷		
馬曲	馬曲付近の植物	馬曲〜城蔵山	
三	カヤノ平を中心とした高等植物目録		
羊歯植物門	種子植物門	裸子植物門	
被子植物門			
第四節	木島平村植生	……………	一五〇
一	はじめに		
二	植物概観		
三	認められた群集・群落単位		
四	おわりに		
第五節	巨樹・古木	……………	一五〇
第八章	動物	……………	一七四
第一節	キリギリスやスズムシの仲間	……………	一七四
一	はじめに		
二	よく目につく親しまれる虫		
三	直翅目の種類		
第二節	蜻蛉	……………	一八〇
一	はじめに		
二	主なトンボの特徴や生態		
三	トンボ目録		
四	おわりに		
第三節	水生昆虫	……………	一八九
一	はじめに		
二	樽川水系の水生昆虫		
三	雪カワラゲ		
四	樽川水系の水生昆虫の種類目録		
第四節	カヤノ平の蝶	……………	二〇三
一	はじめに		
二	蝶の生活		
三	カヤノ平の蝶四種について		
四	カヤノ平の蝶類目録		
第五節	蛾	……………	二〇八
一	はじめに		
二	蛾の生態—食草		
三	蛾の防除及び利用		
四	蛾の種類		
第六節	カブトムシやホタルの仲間	……………	二二三
一	はじめに		
二	身辺によくみられる虫		
三	夏の夜をかざるホタル	子どもに親しまれるカブトムシ・クワガタ・カミキリムシ	
四	クワガタ	カミキリムシ	
五	道案内をする		

ハンミョウ きれいなテントウムシ・コガ

ネムシ 掃除すきなシデムシ その他の

主な甲虫

三 甲虫の種類

第七節 蜂 ……………二四二

一 はじめに

二 蜂の科と主な種の特徴

第八節 蜘蛛類 ……………二四九

一 はじめに

二 家の近くで見られるクモ

三 山野で見られるクモ

四 木島平のクモの種類と採集場所

第九節 魚類・両生類・爬虫類 ……………二五五

一 はじめに

二 魚類

三 両生類

四 爬虫類

第一〇節 木島平村の鳥類相 ……………二六五

一 調査方法と調査地域

二 環境別に見られる主要な鳥と特徴的な鳥

低地の鳥 川すじの鳥 扇状地の鳥

草原の鳥 山ぎわの水田や集落の鳥 山

地の林の鳥 カヤノ平方面のブナ原生林の

鳥

三 木島平村鳥類目録

第一一節 哺乳類 ……………二六八

一 はじめに

二 調査の方法

三 主な哺乳動物とその分布

ニホンザル トウホクノウサギ ニホン

リス ホンシユウモモンガ ニツコウム

ササビ リス モモンガ ムササビ

ニホンツキノワグマ ホンダタヌキ ホ

ンドキツネ ホンドテン ホンドイタチ

ホンドオコジョ ニホンアナグマ イタ

チ オコジョ アナグマ ニホンカモ

シカ

# 歴史編

## 原始・古代

第一章 木島平のあけぼの……………三〇三

第一節 洪積時代の文化……………三〇三

一 川辺りの遺跡

二 湖沼付近の遺跡

三 丘陵・台地上の遺跡

第二節 縄文文化……………三〇六

一 草創期・早期の舞台三枚原

二 再び三枚原へ

三 三枚原から各地へ

四 たそがれの後・晩期

第三節 弥生式文化……………三三三

一 稲作のはじまり

二 広がりゆく弥生式文化

第二章 古墳の営まれるころ……………三三六

一 鬼の釜古墳

二 朝日ゴウロ古墳

三 和栗古墳

第三章 開拓すすむ……………三三三

第一節 高井郡と郷……………三四三

第二節 岳北地方への古道……………三四六

第三節 越知・物部氏の駐留……………三四七

第四節 生業と貢租……………三四九

木島平の地字名……………三五五

## 中世

第一章 武士の興るころ……………三五九

第一節 郷・庄園・牧……………三五九

郷の發達 庄園の發達 牧の發達 武士

のおこり

第二節 源平兩氏と在地領主……………三六二

藤原秀郷のてがら 源平兩氏の興亡

第三節 木曾義仲の挙兵……………三六三

義仲挙兵の根拠 横田河原のたたかい

義仲の没落と高井源氏 信濃の肅清

第四節 鎌倉幕府と比企の乱……………三六七

幕府と御家人 比企の乱とその影響 泉

親平の叛乱

第五節 承久の変と高井地方……………三七〇

後鳥羽上皇の討幕計画 承久の変おこる

市河六郎刑部の活動 新補地頭 岳北地

方の動き 藤原定家の見た北信濃

第六節 巢鷹山をもつ岳北地方……………三七三

中世前期の木島平地方 巢鷹の訴訟事件

守護の裁断 巢鷹山 岳北地方の巢鷹

第二章 兵糧料所おかる……………三七六

第一節 中先代の乱と牧城の戦……………三七六

北条氏ほろぶ 中興の政治 北条党の叛乱

牧城の戦

第二節 足利氏の内紛と高井地方……………三七九

足利尊氏と直義 毛見・木島兩氏の訴論

野辺原・米子城の合戦

第三節 高梨氏の岳北地方進出……………三八三

高梨経頼 小菅庄と高梨氏 高梨氏の所領

信濃は幕府の料国 小菅別当職の改補

第四節 兵糧料所……………三六六

南朝党に備えて 信濃国人層に備えて

第三章 大塔合戦とその前後……………三八八

第一節 大塔合戦……………三八八

小笠原長秀守護となる 大塔合戦の戦況

岳北地方諸氏の動静

第二節 戦後の世相と高梨政盛……………三九一

信濃に二人の守護 高橋の合戦 高梨政

盛の岳北地方進出 越後の内紛と長森原の

合戦 山ノ内諸士の叛乱

第三節 木島平地方の領主……………三九五

木島郷が芦名氏領となる 中世にみえる木

島氏 木島氏の城館跡 毛見郷の土豪た

ち 毛見郷内の城館跡 犬飼南条と同中

村の城館跡



第四章 社寺の崇敬……………四〇三

第一節 諏訪神社を祭る……………四〇三

武神の信仰高まる 諏訪神社の祭祀に奉仕

武田信玄の祭事復興

第二節 小菅神社の信仰……………四二一

小菅権現社のなりたち 中世の元隆寺

小菅庄と熊野社 争乱のちまたになる

小菅社の復興

第五章 武田・上杉氏の争いと北信濃……………四二五

第一節 武田信玄の経略……………四二五

信玄の信濃進攻

第二節 上杉謙信の出陣……………四三七

高梨氏の自落 小菅山への願文 景虎野

沢に出陣

第三節 決戦後の奥信濃と市川氏……………四三三

信玄小菅山を襲う 飯山城の重要性 市

川信房計見城による 市川氏の軍役

第四節 岳北地方の動静……………四三六

毛見領の変遷

第六章 上杉氏の支配……………四三六

第一節 上杉家の相続争い……………四三六

上杉領内二派となる 武田勝頼の救援と景

虎の敗死 市川信房の動き

第二節 武田勝頼の諏訪神社復興……………四三〇

諏訪神社の造宮に奉仕

第三節 武田・織田氏の滅亡と飯山城……………四三三

上杉景勝と市川信房 森長可の侵入

第四節 上杉景勝の支配……………四三〇

上杉景勝の統治 北信濃諸士の動静 岩

井信能と飯山城 岳北地方の市川信房

小菅神社の復興

第五節 市川信房と泉竜寺……………四三九

節香徳忠と楽翁正信 市川信房と楽翁正信

第七章 上杉氏の移封と郷土……………四三三

第一節 上杉景勝の転封事情……………四三三

豊臣秀吉の政策 上杉景勝の転封

第二節 市川氏の動向……………四三六

第八章 中世の郷土……………四〇六

第一節 木島郷……………四〇七

上木島村

第二節 毛見郷……………四〇九

計見村 庚新田村 平沢村 市之割村

高石村 馬曲村

第三節 犬飼郷の地域……………四一三

中村 川口家と安保文書 内山村 稲

荷村 和栗村 小見村 南鴨ヶ原村

北鴨ヶ原村

近 世

第一章 近世村落の成立……………四一

第一節 木島平の領主……………四二

関一政の支配 森忠政の支配 皆川広照

の支配 堀直寄の支配 岩城氏の支配

幕府領

第二節 飯山領から幕府領へ……………四七

一 飯山藩の成立

松平氏の治世 幕府領(中村陣屋支配)

青山氏の支配

第三節 検地と近世村落の成立……………四二

一 検地と村切り

二 幕府領と飯山藩の検地

森検地 慶安の検地 新田検地

第四節 村の姿……………四三

一 新田検地

進む新田検地 上堰と下堰 新田村の成

立

二 村と村の争い

山論 水論

三 本百姓中心の村

四 中野代官所の成立

中野代官所 代官所のしくみ

五 幕府領(享保以後)の代官

第二章 飯山領から幕府領へ……………四〇

第一節 村の政治……………四〇

一 村役人

二 五人組

三 寺請け制度

四 村の掟と運営

五 身分解放への目ざめ

第二節 年貢制度の変遷……………五八

一 年貢の割付

年貢割付状収 私領三役

二 年貢量の変遷

年貢量の移りかわり 検見取法から定免制へ

年貢増徴

三 安永の中野騒動

江戸廻米反對運動 安永騒動

四 安永の新田検地

第三節 農業経営と経済の発達……………五六

一 農民階層と農業経営

二 生産力向上への努力

三 商品作物の栽培

菜種 木綿 桑(養蚕) 楮・漆・青苧

四 農間余業

盛んになる農間余業 山稼 内山紙

質屋稼ぎ 水車 奉公と冬稼ぎ

五 交通の発達

第一節 地主と小農……………六三

一 土地の移動と階層の分解

二 地主の酒造・油絞稼ぎ

第二節 災害と飢饉……………六三

一 水との闘い

千曲川の洪水 馬曲川の洪水 樽川の洪水

小沼村との出入

二 飢えとの闘い

天明の飢饉 天保の飢饉

三 田米制度

第三節 高まる農民の力……………六四

一 執ような訴願

年貢軽減要求 越後代官所の支配 支配

役所替えを求めて

二 村役人選出と村方騒動

第四節 支配の再編……………六六

一 効果のあがらぬ施策

二 取締役と組合村

第五節 村の文化……………六七

一 村の文化人

俳諧 和歌 和算 医術

二 寺小屋の普及

目次

第三章 村民の成長……………六三

求められる教養 寺小屋の師匠 教える  
内容

## 第四章 村体制をこえて（安政期以降）……………六九六

### 第一節 強まる社会不安……………六九六

#### 一 開国の影響

諸産業 米価の高騰

#### 二 新しい負担

御用金のとりたて 和宮下向

### 第二節 維新政府の直轄へ……………七二四

#### 一 替る支配者

中央のうごき 戊辰戦争 伊那県から中野県へ

#### 二 中野騒動

農民の反抗激化と一揆の原因 一揆の足どり

事態の收拾 長野移庁と一揆の性格

#### 三 長野県の成立

## 近代

## 明治期の木島平

概観……………七三

## 第一章 郡町村制の展開……………七三

### 第一節 行政のうつり変わり……………七三

#### 一 明治の行政変革と木島平

大小区設置の推移 上木島・往郷・穂高三

村の誕生 町村制の推移と戸長役場

#### 二 地租改正と近代土地所有

土地売買の自由と壬申地券 地租改正法制

定と地価算定 林野の改租と官民有区分

階層分化と小作慣行

#### 三 那分合問題と諸官庁の設置

市川郡設置案と反対運動 中野警察署穂高

分署

### 第二節 政治への参加……………七三九

#### 一 地方自治の展開

村会の発足 郡会と県会

#### 二 地域の政治活動

議員選挙の始まり 寿自由党から北信自由

党へ 北信自由党の活動

## 第二章 産業経済の近代化……………七四

### 第一節 殖産興業政策と産業の進展……………七四

一 米作を中心とした木島平

作付面積と農家戸数の推移 水稲品種と栽

培技術 自作・自作・小作農の推移

稲作と村人の生活

二 副業の進展

養蚕の発展 蚕種の製造 内山紙生産の

進展

第二節 勸業団体の草創とその発展……………七三

一 金融機関の生い立ち

産業組合以前の金融機関 産業組合の創設

二 系統農会の生い立ち

農会運動の胎動とその設立 村農会の誕生

第三章 交通・通信の発達……………七七

第一節 近代交通の発達……………七七

一 道路と乗り物

道路の整備と道路元標 野沢街道と乗り物

村内の主な道路

二 信越線の開通と生活の変化

豊野駅との結びつき 善光寺まいり 生

活物資の輸送

第二節 郵便・電信の始まり……………六二

一 郵便局の開設

中村郵便局の設立 郵便配達の始まり

二 電信報道のおこり

中村局の電信業務 新聞購読の始まり

第四章 人口動態と村人の生活……………七四

第一節 集落の分布状況……………六四

一 集落分布の特色

上木島村 往郷村 穂高村

二 特色を持つ集落

山ふところの四ノ宮 高地開発の馬曲

扇状地中央の高石 街道筋の中村

第二節 新戸籍と人口の変遷……………七五

一 新しい戸籍 相つぐ戸籍帳の改正 明治七年の戸籍帳

二 人口の推移

漸増傾向をたどる人口 多産多死型の自然

動態

第三節 村人の生活……………八〇

一 農家や商家のくらし

農家の仕事 農家の日課 商店と製糸工

二 場

二 村落の生活と家族制度

休み日とお伝馬 マケと本家・分家 家

族と親子の關係

第四節 衛生と伝染病……………八〇七

一 むかしの衛生

河水・泉・井戸水による飲用水 農家の食

事 村内の医師

二 伝染病

コレラ・赤痢の発生状況 各部落衛生組合

の活動 連合隔離病舎の建設

第五章 戦争と地域の生活……………八二〇

一 日清・日露の戦争

帝国軍政の成立 壮丁の体格検査と出征兵

士 物資の供出 戦没者と忠魂碑

二 地域の組織的活動

在郷軍人分会の設立 日本赤十字社分会

第五章 災害とのたたかい……………八二六

第一節 自然災害とその対処……………八二六

一 水害と防止対策

樽川の水害 馬曲川の水害 困難な堤防

工事 水害に対する請願運動

二 大雪や干魃の被害

豪雪とのたたかい 干害・風・霜の被害

第二節 火災と防災活動……………八二六

一 大火災の記録

照明寺の焼失 四十一年の大火

二 防災の組織活動

消防組織の創設 消防組と設備 消火・

防災活動

第六章 新しい教育と文化……………八二九

第一節 新教育制度……………八二九

一 初等教育制度の創設と推移

小学校教育の発足 下高井高等小学校穂高

分校 教育勅語と御真影 運動会の始ま

り 遠足と修学旅行

二 実業教育・中等教育の進展

はたおり学校 実業補習学校 郡立下高

井農林学校の発足 県立飯山中学校の創立

下高井教育会と各村教育会

三 社会教育の推進

青年会の発足 婦人会の誕生 同窓会の

創立

第二節 宗教と文化活動……………八三三

一 明治期の宗教

明治維新と宗教 神道の国教化と宗教界

二 各種の文化活動

盛んな短歌 俳句の結社

## 大正期の木島平

概観……………八五三

第一章 大正デモクラシーの推移……………八五三

第一節 国政に対する民衆の動き……………八五三

一 デモクラシーへの目ざめ

知事公選運動 普通選挙運動の高まり

二 自主青年会の活動

青年会のはじまり 修養中心の諸活動

第二節 地方自治の変遷……………八五九

一 郡政廃止と地方行政

郡政下の地方行政 郡政廃止と事後処理

二 自治体としての三カ村

村政の運営 恐慌下の村財政

第二章 農業経営の推移……………八六六

第一節 農業生産の進展……………八六六

一 稲作の改善

農会の勸業指導 新品種の導入

二 耕作法の改善

金肥の普及 農機具の進出

第二節 農会と産業組合の発展……………八七四

一 系統農会の組織活動

農会組織と活動 農事小組合の設立 養蚕団体の活動

二 産業組合の発展

産業組合の統廃合 農業倉庫穂高支庫の設立

第三章 交通・通信の推移……………八八三

第一節 鉄道と道路の開発……………八八三

一 私設鉄道の開通

飯山鉄道 河東鉄道

二 道路の整備

県道と郡道 村道の整備

第二節 電燈や郵便電話の普及……………八九四

一 信濃電気による点燈

ランプから電燈へ 電燈料と電球の交換

点燈による生活の変化

二 郵便の普及

中村郵便局の業務拡大 上木島郵便局の設

立と変遷

三 電話の開設

家庭用電話の設置 電話交換業務の開始

第四章 教育・文化の進展 …… 一九二

第一節 学校教育の振興 …… 一九二

一 小学校及び補習科教育の充実

子守学級と就学率の向上 教育内容の充実

教育費と教育施設 学校行事と学校保健

補習科教育の強化

二 中等教育の進展

下高井農林学校の充実 飯山中学校の前進

飯山高等女学校の設立

第二節 地域の文化活動 …… 一九二

一 社会団体の活動

青年会の自主活動 婦人会の活動

二 新聞購読と地区史編さん

新聞事業と購読 地区史編さんと自治の策

三 その他の文化活動

歌人たち 全盛時代の蕉風会 謡曲の指

導者たち

戦時体制下の木島平

概観 …… 一九三

第一章 昭和恐慌と対策 …… 一九四

第一節 恐慌発生と諸対策 …… 一九四

一 経済恐慌と村政

農村恐慌の推移 村政の動きと財政

二 失業対策と満州移民

救農土木事業の進行 高社郷建設と青少年

一 義勇隊

第二節 経済更生運動の展開 …… 一九三

一 農業恐慌下の苦節

産業組合五カ年計画 地域産業組合の発達

二 戦時下の農業団体

戦時統制下の農会 戦争末期の農業団体

法人になった農事実行組合

第三節 農業・商工業の変遷 …… 一九七

一 稲作の進歩

農機具改良の推移 米相場と庭先売買



二 特殊作物の進展

伸びるホップ栽培 たばこ栽培の導入

三 副業の盛衰

養蚕の推移 内山紙生産の推移

四 商工業の推移

中村商店街 運搬業と金融機関

第二章 恐慌下の教育と生活……………九四六

第一節 恐慌下の教育問題……………九四六

一 義務教育の窮状

教員給料の不払い問題 長欠・欠食児童の出現

出現

二 学校教育の変容

指導内容及び方法 教師の思想傾向 上

級学校入学者の減少

第二節 恐慌下の社会生活……………九五三

一 農村の生活

農家の窮状 不況下のラジオ

二 社会団体の活動

諸団体への補助金減額 青年会活動の動き

目次 第三章 日中事変から太平洋戦争……………九六六

第一節 戦時体制の強化……………九六六

一 軍事体制と戦争動員

満州事変から日中事変へ 太平洋戦争

二 戦時下の国民生活

国民精神総動員の強化 国防軍事訓練と金

属回収 部落会・隣組の活動 勤労奉仕

と勤労働員

第二節 翼賛体制と諸団体の活動……………九六六

一 翼賛体制の確立

翼賛壮年団の結成 積極的な壮年団活動

翼賛選挙の実施

二 各種団体の活動

銃後の担い手国防婦人会 予備軍的な在郷

軍人分会

第四章 戦時統制下の生活……………九七〇

第一節 経済統制の強化……………九七〇

一 食糧増産と生産統制

国家総動員と作付統制 食糧増産の実際

二 食糧確保の対策

食糧管理法と米の供出 食糧対策と精神総

動員 食糧増産と援農

三 商工業の整理統合

醸造業と搾油業 製材業の推移

第二節 戦時下の行政や教育 …………… 九七九

一 地域行政と警察

下高井地方事務所を設置 戦時下の警察業務

木島平地域の駐在所の推移

二 耐乏の生活

衣料切符と衣生活 食糧配給と食生活

三 教育の統制

青年学校の義務化 国民学校と皇国民の鍊成

興亜教育と義勇軍の送出 児童生徒の勤勞奉仕

新しい村づくりをめざす木島平

概観 …………… 九九五

第一章 占領政策と民主化 …………… 九九七

第一節 敗戦と生活の混乱 …………… 九九七

一 敗戦と生活困窮

終戦の詔書 物資の欠乏と混乱 ヤミ取

引きと救援物資

二 食糧危機とインフレ

食糧不足と強制供出 預金封鎖と新円切り替え

インフレ下の村財政

三 海外引揚者と救済対策

戦没者と遺家族 復員と引揚者 戦後の援護対策

第二節 体制改革、民主化への努力 …………… 一〇三三

一 占領政策と民主化

公職追放と農村の民主化 婦人参政権と地方選挙

自治法制定と自治のしくみ 諸団体の民主化

二 新憲法の制定

新憲法と住民の反響 新民法と家庭の変化

三 農地改革と農民

画期的な農地改革 農業三団体の統合

農業委員会の活動 農村の変ぼう

四 復興への努力

樽川・馬曲川の災害復旧工事 復興の種々

相と高石共同炊事 物資不足と自給自足

食糧不足と早出し奨励

第二章 木島平村発足と村政の発展……………1017

第一節 合併までの経緯……………1017

一 合併の経過

結びつきの深い三カ村 合併への話し合い

合併調印と新村への胎動

二 新村発足直後の運営

融和統合の動き 行政運営の合理化 財

政の合理化

三 村政をあくする選挙

村長選挙 村議会議員の選挙 教育委員

と農業委員の選挙

第二節 近代農村建設へのあゆみ……………1033

一 村民融和のあしあと

内閣総理大臣の表彰 役場新庁舎の建設

計画行政の展開 村民憲章と村歌・村花の

制定

二 公共事業の推進

簡易水道開設の経過全村上水道の完備

公共施設の充実 広域行政の施設

三 防災施設・制度の充実

消防団組織・体制の変遷、消防器機の近代化

岳北広域消防署の設置

四 環境衛生と保健衛生の強化

環境衛生の自治活動 無料検診の実施

全村健康管理事業の推進

第三節 農協創立と近代化への歩み……………1074

一 農業協同組合の発展

衣替えした農業協同組合 経営危機と農協

再編問題 農協の再建と拡充計画 地域

農協の主な足どり

二 農業協同組合の合併

三農協の合併 充実した農協施設 婦人

部の生活改善活動 農協傘下の生産団体

第三章 高度経済成長をめざして……………1091

第一節 農林水産業の推移……………1135

一 稲作の発展

農機具の進歩と農作業の省力化 保温折衷

苗代の普及 農薬の普及と散布方法の進歩

肥料の推移と土作り運動

二 畑作物の推移

衰退した作物 伸びる畑作物

三 菌茸栽培の進展

急上昇のえのき茸栽培 その他の菌茸栽培

#### 四 畜産の動向

家畜飼育の推移 畜産の振興

#### 五 林業と水産業

国有林と民有林 森林組合の働き 木炭

製造の推移 にじますの養殖

#### 第二節 農政の動きと農業……………二二五

##### 一 農業近代化への動き

農業構造改善事業の発足 農業装備の近代化

構造改善がもたらすもの

##### 二 ゆれ動く農政下の農業

農業共済制度 米価の推移と米価運動

米の生産過剰と休耕・減反

#### 第三節 商工業の進展……………二二六

##### 一 伸びる商業

商店の種類と戸数増加 商工会の組織と働き

##### 二 新しい工場の進出

自動車整備工場 誘致した農村工場等

#### 第四章 人口と社会問題……………二二四

#### 第一節 人口・世帯数の推移……………二二四

##### 一 人口動態の変化

人口の急減 人口の減少率鈍化 昼間人

#### 人口の流動

##### 二 人口構成の変遷

ピラミット型からひょうたん型へ 産業別

人口の変容 部落別人口の変動

#### 第二節 住宅改善と団地造成……………二二四

##### 一 改善進む住宅

住宅の改善・変容 増築案と新築

##### 二 土地開発公社の宅地造成

桜ヶ丘団地の新設 大沢団地の造成

#### 第三節 消費生活と生活改善……………二二六

##### 一 物価値上りと消費生活

三十年代の消費生活 四十年代の消費生活

##### 二 生活改善運動

生活改善推進委員会の発足 公営結婚・公

営葬儀の改善

#### 第四節 社会保障と社会問題……………二二五

##### 一 社会福祉の充実

社会福祉行政の展開 児童福祉と母子・婦

人の福祉 老人福祉と身障者福祉 社会

保険の充実

##### 二 社会運動の展開

農民運動の動向 部落差別と解放運動

第五章 郷土の開発と観光事業……………二二六

第一節 山麓と奥地の開発……………二二六

一 高社山麓の開発

戦後の池の平緊急開拓 県営の開拓パイロ

ット事業

二 カヤノ平の開発

畜産振興と牧場開設 林道開設と自然休養

林

第二節 観光事業の幕明け……………二二七

一 木島平スキー場の誕生

自然利用の観光開発 広がるゲレンデ伸び

るリフト

二 木島平の民宿開設

スキー客の受入れ 自然をいかした通年民

宿

第六章 交通・通信の発展……………二二七

第一節 道路交通事情の推移……………二二七

一 道路と橋梁の整備

道路の新設改良と舗装 永久橋の建設

改装された村道二二号線

二 交通機関の推移

バス等の発達 長野電鉄線の延長問題

三 自家用車の増加と交通問題

急増の自家用車 交通事故増加とその対策

第二節 通信の発達……………二二八

一 県下初の有線放送

全村放送開始とその後の経過 有線放送と

村民生活

二 公社電話の普及

電話加入者の変遷 木島平電話交換局の開

設

第七章 教育・文化の進展……………二二八

第一節 戦後の学校教育……………二二八

一 民主教育への転換

新しい教育を目指して 新教育の講習会と

社会科の新設 民定による教科書採択

悪条件下の学校教育

二 六・三・三制度の発足

新制度の三小学校 組合立木島平中学校の

創設 下高井農林高等学校の発足

三 教育条件整備と新教育の展開

義務教育の内容改革 二分校の統合 学

校給食始まる	特殊教育のあゆみ	中学
校寄宿舎の推進	進む同和教育	根をお
ろした保育児教育	伝統ある木島平職員会	
P T A・教職員組合の誕生	中学校の校舎	
改築		
第二節 社会教育と文化活動		二三七

## 民 俗 編

概要	二三三
----	-----

第一章 衣・食・住	二三三
-----------	-----

第一節 衣生活	二三三
---------	-----

仕事着 ふだん着 晴れ着 履物

帽子 着物の裁ち方 織り物 寝具

染料 髪型

第二節 食制	二四〇
--------	-----

主食 間食 一日の食事 赤飯を食べ

る日 餅をつく日 調味料

第三節 居住	二四五
--------	-----

一 社会教育の進展	
公民館活動の躍進	社会体育の振興
会教育団体	社
二 文化活動と宗教	
積極的な広報活動	文化財の保護
戦時	
下の宗教	戦後の宗教界

概要	建築儀礼	俗信	間取り
----	------	----	-----

第二章 生産・生業	二五〇
-----------	-----

第一節 農業	二五〇
--------	-----

耕地と産物 稲作 肥料と消毒 タア

ホリ 養蚕

第二節 冬仕事	二五七
---------	-----

薬仕事 出稼ぎ 山仕事 紙すき

糸とり 狩猟

第三章 交通・運輸・通信	二六四
--------------	-----

第一節 交通……………二六四

乗り物 冬の交通

第二節 運輸……………二六六

人の背による運搬具 牛馬による運搬具

大八車とリヤカーの普及 そり

第三節 通信……………二七〇

目で見えるもの 音によるもの ふれごと

第四章 村制……………二七二

第一節 村役……………二七二

役員 役員を選出及び任期 集会 役

員の引き継ぎ

第二節 助け合い……………二七五

共同労働 葬式組 講

第三節 ムラのこと……………二七九

共有林 おもなできごと 村入り 青

年団 草わけ

第五章 族制……………二八三

第一節 マケ……………二八三

屋敷神とマケ マケの付合い

第二節 イエ……………二八六

亭主渡し ヨオモライ

第六章 信仰……………二八八

第一節 講……………二八八

庚申講 戸隠講 三峯講 伊勢講

念仏講 乃木講 観音講 太子講

最勝講 十二講 女人講 飯お講

二十三夜さん オンタケ講 不動講

第二節 路傍の石神・石仏……………二九五

第七章 民俗芸能……………二九六

第一節 祭り……………二九六

秋祭り 内山の柱松子 小見の観音の祭

礼

第二節 民謡・童謡……………三〇四

第八章 人の一生……………三〇〇

第一節 婚姻……………三〇〇

見合いと下仲人 仲人とその交渉 婚禮

婚姻に關した諸役 婚礼後のこと ハッ

トリの式 よい嫁の資格 一年間の中、

嫁が実家へ帰る日 婚姻に關する俗信

第二節 産育……………一三二

出産まで 誕生日まで 誕生日以後

産育に関する俗信

第三節 厄年……………一三〇

第四節 葬制……………一三三

葬儀まで 葬儀の当日 葬儀の日後

第九章 年中行事……………一三七

第一節 正月行事……………一三七

元旦 仕事始め 三日年取り 六日年

取り 七草 歳開き 十四日年取り

小正月 二十日正月 みそか年取り

第二節 春の行事……………一四六

節分 初午 山の神 ヤシヨウマ

ひなまつり 春のお彼岸 田植えの行事

宵節句

第三節 夏の行事……………一五一

小菅市 七夕まつり 盆行事 みさやま

土用丑祭り

第四節 秋の行事……………一五四

二百十日 キクの節句 秋のお彼岸

刈り上げ くんち 十三夜 親葉師

とうかんや かかしあげ えびす講

第五節 年末の行事……………一五五

冬至 正月の準備

第十章 民俗知識……………一五六

——俗信——

禁の部 兆の部 呪の部

第十一章 口頭伝承……………一六四

第一節 伝説……………一六四

第二節 昔話……………一七四

木島平村歴史年表……………一七七

木島平村誌刊行委員会及び編纂委員会……………一四二

木島平村誌調査委員兼編纂委員……………一四三

執筆分担……………一四四

あとがき……………一四六